

## 美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名： 地域情報のアーカイブと発信による「ひと・まち・文化」交流事業

2 実施団体： 特定非営利活動法人勝山・町並み委員会

3 協働担当課： 美作県民局 地域政策部 地域づくり推進課

### 4 事業概要

今事業の目的はすべて、「自分たちの暮らしを大切にしながら行う、持続可能な地域づくり」です。

地域のニーズに耳を傾けていく中で、

- ・【若い世代】にも地域づくりに参加してほしい。
- ・勝山で行っている取組みの、内外への【情報発信】が足りない。
- ・移住誘致のため、移住希望者と住民の【マッチング】が行える場がない。

上記、3点の課題が浮かび上がってきました。

これらの課題解決の一助となり、同時に継続的な取り組みにしていくために、今事業では、下記3点を実施しました。

#### ①住民参加型の情報整理・発信事業

SNS(インスタグラム)を活用した簡易な情報発信の住民参加型体制づくり。SNSと連動したサイトの立ち上げ、情報発信の運営。

#### ②ウィキペディアタウンの実施

オンライン百科事典「ウィキペディア」に記事を書いていく体験型イベント、「ウィキペディアタウン」の継続的な実施。若い世代の参画、情報発信を兼ねました。

#### ③検討会議の実施

持続可能な勝山であるため、勝山の「地域振興会社」設立も見据えた、若い世代によるビジネスモデルの構築、推進体制の確立に向けた検討会議を行う。

以上の事業を実施しました。

### 5 実施内容

#### ①住民参加型の情報整理・発信事業について

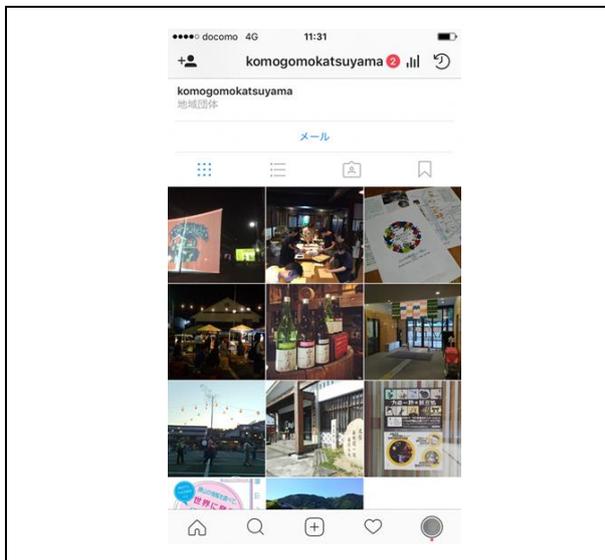
制作立ち上げ(特派員)チームを7月に結成し、内容・コンテンツ・デザイン・WEBプログラム・発信・運営方法などの会議を重ねて、8月に仮サイトオープン。9月に正式オープンしました。その後、特派員の増員・サイトの改善などをくり返し、現在は安定的に運営しています。(2019年3月現在、記事数は139にのぼる)

### ②ウィキペディアタウンの実施について

11月から12月にかけて、計8回のウィキペディアタウンに係るイベントを実施。ウィキペディアページ「勝山のお雛まつり」、「勝山文化往来館ひしお」、「真庭市立中央図書館」の新記事作成。また、ウィキペディアページ「勝山町並み保存地区」の加筆修正を行いました。

### ③検討会議の実施について

空き家活用・地域イベントの開催・地域活動の担い手・世代間交流・組織づくり・まちづくりなどをテーマに、講師の招聘なども行い、計17回の会議および勉強会を実施しました。地域の若い有志団体「勝山町並み会議」は、真庭を代表する地域団体の1つになりました。また、今春にはシニア層や勝山の富原・月田地区とも連携した若者主体の勝山地域振興組織(一般社団法人)の設立も決まっています。



参加型サイト「こもごもかつやま」と連携したinstagramアカウント



ウィキペディアタウンの様子



ウィキペディアタウンの様子2



検討会議から生まれた「勝山町並み会議」による、「まちなみバル」

## 6 事業実施による成果、効果、今後の課題

### (1) 成果、効果

#### ① 住民参加型の情報整理・発信事業について

住民参加型による、負担の少ない情報発信が継続的に行えているため、当初の目標であった、「勝山で行っている取組みの、内外への【情報発信】が足りない」ことへの解消につながっています。勝山に関する他のサイトを見ても、記事数(サイト内のコンテンツの充実度)において、139記事(2019年3月現在)」と最も高い数字となっています。

また、イベントの情報発信も同時に行っているため、「さまざまな人たちによる【マッチング】のきっかけ」にもなっています。何より、サイトを立ち上げただけの一過性のものではなく、現在も住民によって安定的に情報が上がっている点が大きいと考えます。

#### ② ウィキペディアタウンの実施について

「勝山のお雛まつり」、「勝山文化往来館ひしお」、「真庭市立中央図書館」の新記事作成。また、ウィキペディアページ「勝山町並み保存地区」の加筆修正を行いました。すでに各ページは検索上位に上がっており、「情報発信」という観点から、非常に効果が高いものとなりました。

また、それだけに留まらず、ウィキペディアに記事を書けるノウハウが身についたことも大きく、真庭市内久世の「早川代官」などのウィキペディアページは、今事業の参加者によって自発的に書かれています。さらに今事業がきっかけとなり、山陽学園大学とタイアップしたウィキペディアのイベントも予定されています。

#### ③ 検討会議の実施について

検討会議を重ねた結果、地域の若い有志団体「勝山町並み会議」が自発的に立ち上がり、すでに真庭を代表する地域団体の1つになっています。当初の目標であった、「【若い世代】にも地域づくりに参加してほしい」について、最も良い形で解消されました。

同団体はすでに、500名を集客した「まちなみバル」を9月に実施。さらにSDGs啓発事業の一団体に選ばれ、30年以上も前に途絶えてしまった、かつての勝山銘菓「丸太棒復活プロジェクト」を2月に実施。真庭市主催のSDGsの大々的なフォーラムでも、地域団体の代表として「勝山町並み会議」が選ばれ、講演を行うまでに成長しました。

また、今春にはシニア層や勝山の富原・月田地区とも連携した若者主体の勝山地域振興組織(一般社団法人)の設立も決まっています。

## (2) 今後の課題

### ① 住民参加型の情報整理・発信事業について

継続的に情報発信ができるようになりましたが、ここからは記事(写真)の質であったり、記事に対するレスポンスが求められることになるのではないかと、思っています。発信への参加を容易にしたため、クオリティには至っておらず、その点が今後の課題になると思います。

### ② ウィキペディアタウンの実施について

ウィキペディアに記事を書くことのできるノウハウは身につけ、人材も育ちましたが、現在はなぜか、勝山以外の地域からばかり、「ウィキペディアタウンについて教えてほしい」との声が上がっています。勝山よりも、他地域のほうが関心が高く、その点を課題だと感じています。

### ③ 検討会議の実施について

この件については、すでに若者による有志団体「勝山町並み会議」や、勝山地域振興組織(一般社団法人)の設立が決まっています。今後は、今事業の課題というよりはむしろ、各団体の取り組みがいかに効果を発揮するか、各団体の方向性が課題になると思います。

## 7 県民局と協働した効果及び課題

今回、県民局さんには多大なご支援、ご協力をいただき、まことに感謝しています。今事業の企画段階から相談にのってくださり、貴重なアドバイスもいただきました。とくに「ウィキペディアタウンの実施」については、どの層にリーチをすれば良いか、どういう文言なら響くかなど、観光から地域おこしまで広くイベントに携わってきた県民局さんだからこそその知恵をお借りすることができました。

また、若者有志団体の立ち上げ・運営にあたっては、多くの地域自主組織サポートを行ってきた県民局さんより、他地域の団体の様子など、円滑に運営するための意見交換などをすることができました。